



特集 その後どのように過ごしていますか？

RISSHO KID'S きらり 代沢

特集 その後どのように過ごしていますか？

RISSHO KID'S きらり 代沢

東京都世田谷区 | 木造施設(保育園) | 代表:坂本喜一郎さん・園長:由貴子さん



写真:アトリエ飯嶋

1

ストーリー

今回ご紹介するのは、2018年12月に完成、翌年4月より開園した保育園「RISSHO KID'S きらり 代沢」。縁側のようなデッキやそこから眺める庭の樹々の様子に、どこか和の雰囲気を感じる趣のある佇まい。「地主さんとの出会いではじめてこの土地を訪れたときに、建物はなく庭園だけが残っていて、一目見て「最高に良い庭だ!!」と思いました」。そう語るのには、保育園の代表である坂本喜一郎先生。「せっかくならこの土地や空間に合う保育園をつくりたい」——そんな想いを胸に、きらり代沢の建築計画がはじまりました。

設計監理を担当したのは袴田喜夫建築設計室の袴田喜夫さん。お二人の出会いは、喜一郎先生が以前他の保育園を見学した時、空間づくりの概念がご自身の保育の考え方と強く重なると感じ、その建物の設計者が袴田さんだったのだそうです。



かくれんぼ気分も味わえる、園児用のロッカースペース。

2

子どもも大人も心地良い と思える「空間」をつくる

「僕は『施設』という言葉は使わず、必ず『空間』という言葉を使っています」と喜一郎先生。基本的に施設と呼ばれる場は管理が大前提なので、全体が見えるように設計されているそうです。先生たちにとっては都合が良いけれど、子どもたちは見られているのでほっとできる瞬間がない……。「心地良い時間と空間があれば子どもは自然と落ち着きます。それに先生も温かな気持ちで過ごせるので、お互い穏やかになれるんです。『人間らしく自分のリズムで生活できることが、最終的に質の高い保育につながる』。それが僕の中で明確に出ている答えです」とお話をいただきました。

目で見てても手で触ってもあたたかみのある木の空間で、楽しそうに過ごす先生と子どもたち。動き回れる広い場所もあれば、秘密基地のような籠りスペースもあり、それぞれが自分のペースで活動している様子にこちらも穏やかな気持ちになります。「外から内に入ってくるとホっとできる。この空間にいると忙しくて時間が経つのが早いのではなく、心地良くゆったり過ごせて、気づけばあっという間に時間が過ぎている……そんな感じです」と園長の由貴子先生もニッコリ。



喜一郎先生と由貴子先生

1. 広々と遊べるホール。2. エントランスとつながる廊下兼遊び場。3. 籠り感のある絵本コーナー。4. すやすや眠る子どもたち。5. 子どもたちのロッカーと2階につながる秘密の梯子。



3

「ここでしかできないこと」を楽しむ

一つひとつが 特徴的な場

RISSHO KID'S きらり 代沢の特徴は、空間の一つひとつに意味があること。例えば「振り返りの湯」という半露天風呂や「くつろぎの場」という名の職員室など、とことんやるをコンセプトに、園の先生や子どもにしか体験できないことを大事にしています。



1.入浴しながら先生と子どもがその日の出来事を楽しく振り返れる、延長保育改善策としてのアイデア。2.1階と2階をつなぐ隠れ家的ロフト。3.席を固定せず譲り合って座れる掘りごたつ&カウンターテーブル。4.先生たちのための、気持ちをリセットできる場。



職員室…空間デザイン:小泉 誠+Koizumi Studio



1.思い思いの場所で聞く、絵本の読み聞かせ。
2.ランチタイムは、その日の気持ちに合わせて自分で席を選べる。3.動物の特徴を想像して体で表現する、音楽と絵本を組み合わせたダンス。



お互い楽しんで 成長できること

子どもたちの日々の自由な発想を応援することはもちろん、先生たちも茶道やダンスなど自身の特技や趣味を活かして子どもたちと接する機会も多くあります。お互いが「楽しい」と思えることを一緒に体感できる、思いやりと学びの力が育まれる場。

取材後記

保育園で大事なポイントって何だろう?と想像すると、最初に子どもたちに関連することが思い浮かびがちですが、それと同じくらいに先生たちにとっても居心地が良いと思える空間づくりが重要なのだと、この場において実感しました。「住まいも保育園も職場も、どこにいても自分らしくいられる時間があって良い」と思えるとホッとしますね。(記:広報 吉川)



設計監理:袴田喜夫建築設計室/施工:相羽建設/撮影取材・編集:伊藤・吉川
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



製作:藤田政利